

発達障がいに寄り添うこと

発達障がいは幼児のうちから症状が現れることがほとんどだといわれます。
私たちは、寄り添うために何ができるのでしょうか。

違いを意識し 少しの配慮で

INTERVIEW
幼児から大人まで支援する
熊本県南部発達障がい者支援
センター「わるつ」(八代市)で
お話を聞きました。

本人と周りをつなぐ

「わるつ」では、本人やご家族から相談を受けるほか、家庭や学校、職場といった環境と本人をつなぐ役割ができるよう心掛けています。本人やご家族の希望が最優先です。
発達障がいについての知識の普及啓発活動として、学校や職場などへの講師派遣も行っています。

行動全体で判断する

発達障がいは先天的な脳機能の障がいですが、検査ではつきりとした部分が損傷している」といった判断基準はありません。そのため、行動の特徴で判断するしかないので、一時的な行動だけでなくその前後の行動や成長過程など、全体を見て判断する必要があります。
一人一人の違いを知る
発達障がいといっても、現れている症状が一人一人違うので対応方法も違います。

例えば、「話を聞いていない」という同じ状況でも、自閉スペクトラム症だと、言葉の意味や文脈が理解できていないのかもしれないし、ADHDだと、意味は理解できていても行動のコントロールができていないのかもしれない。

だから、同じ状況で同じ話を聞いていても「捉え方」が違う場合があるということを知ってほしいです。周りの「伝え方」が変われば、スムーズにコミュニケーションが取れやすくなることも。

少しの配慮で変わる

発達障がいは、病院で診断されたらすぐに対応策が見つかるものでもありません。ただ、自分の特性を知り、困りごとへの対応が分かることで、生活しやすくなります。
発達障がいがある人にとって、診断より周りの理解や配慮の方が大事な場面もあります。支援と聞くと「特別なこと」「ハードルが高い」と思われがち。でも、違いを意識して、ちょっとした配慮でいい方に変わることもたくさんあるんです。



副センター長
西坂 亮子 さん



相談員
宮崎 真衣 さん

きっかけを見つけ 関心を持って

INTERVIEW
発達障がいのある次女(32)と暮らす山本弘昭さん(松橋町)にお話を聞きました。

初めて歩いた日の喜び

次女は3歳くらいまで歩けなかったんです。松橋療養園(県こども総合療育センター)の前身)に通い、座る・立つ・歩くの訓練に取り組んで、歩けるようになったときは本当にうれしかったですね。

こだわりの強さに悩む

次女はこだわりが強く、時に親と意見が対立することもあり、どう対応するのが良いか今でも悩みます。お互い意地になって、後々反省することもある。

悩みを話せる場所で

次女が通う就労支援B型事業所の「宇城きぼうの家」には「症例検討会」という保護者が集まる機会があります。お互いに子

関心を持つきっかけに

どもに対する関わり方を発表し合うので参考にしています。
きぼうの家ではもう5年働いていて、よほどのことでなければ休みません。頑張っていますよ。
発達障がいがある人が身近にいない人にとって、関心を持つのは難しいだろうと思います。こういった特集をきっかけにして、関心を持ってもらうことができればいいですね。



熊本県南部
発達障がい者支援センター
「わるつ」



八代市西片町1660(県八代総合庁舎2階)
☎0965-62-8839

宇城市で保護者向け講座が開かれます
「発達障がいと災害への備え
～家庭で出来ること～」

日時 11月24日(火)
10時～12時30分
場所 不知火防災拠点センター
対象 小学1～6年生までの保護者
定員 10人(先着順 参加無料)
申込締切 11月17日(火)
☎0965-62-8839